

参考資料② 「無給水加湿」を搭載した最新機種「うるさら7」のご紹介

エアコン暖房による室内の空気の乾燥を解決するために開発された「うるるとさらら」の登場から約 20 年が経過した今なお、加湿機能付きエアコンに対するニーズは高いようです。暖房しながら無給水で加湿ができる機能を備えたエアコンを欲しいと思うかを聞いたところ約 6 割（61.5%）が「欲しい」（「とても欲しい」と「やや欲しい」の合計）と回答しました。さらに「今後検討したい」（27.0%）まで含めると、加湿機能付きエアコンに対するニーズは約 9 割（88.5%）に達します（図 5）。

Q: あなたは暖房しながら同時に加湿ができる機能を備えたエアコンがあれば欲しいと思いますか。 ※単一回答

＜加湿機能付きエアコンの概要＞

- ・給水の必要がない(外気の水分を集めて室内を加湿できる)
- ・ボタンひとつで好みの湿度にコントロールできる
- ・エアコンの風力で部屋の隅々までムラ無く加湿できる

加湿機能付きエアコン
に対するニーズ計

88.5%

「とても欲しい」+「やや欲しい」
+「今後検討したい」の合計

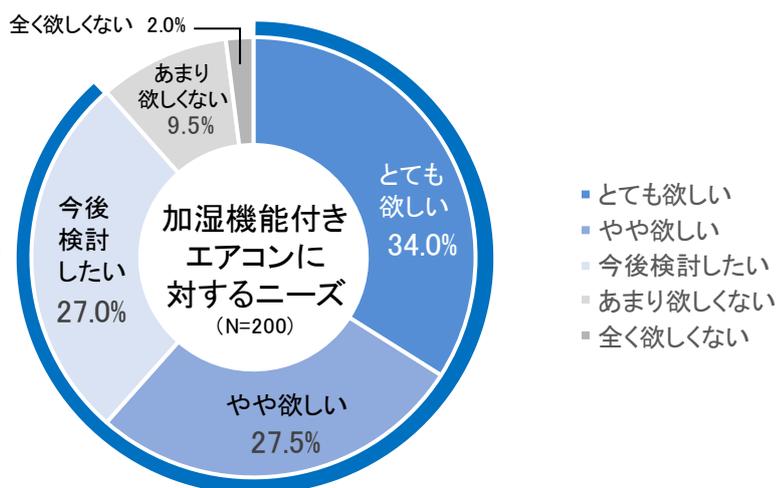


図5 加湿機能付きエアコンに対するニーズ

こうした状況の中、最新の「うるさら7」（2018年11月発売）は、ダイキンが培ってきた無給水加湿技術、湿度コントロール技術に、好みの温熱環境を学習するAIを組み合わせた業界初^{*1}の「AI快適自動」運転により、年間を通じて快適な室内環境を実現します。AIで好みの温熱環境を学習する本商品のコンセプトと、それを実現する技術や形状が評価され、2018年度グッドデザイン賞^{*2}を受賞しています。



GOOD DESIGN AWARD
2018年度受賞

*1 当社調べ：2018年12月4日現在

*2 公益財団法人 日本デザイン振興会 2018年度「グッドデザイン賞」受賞（住宅設備機器部門）

「うるさら7」の特徴①無給水加湿（うるる加湿）

室外機に搭載された加湿ユニットが屋外の空気を取り込み、水分だけを取り出してお部屋の加湿に利用。従来の加湿器のように水を補給する必要がなく、手間をかけずにお部屋を潤せます。



うるるとさららの豆知識

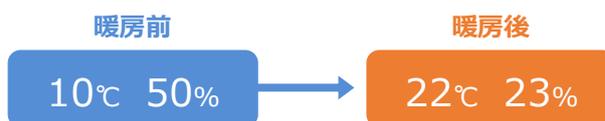
冬の室内、こんなこと気になりませんか。



空気の乾燥が原因かもしれません。

その理由は・・・
室温を上げるだけで、湿度が下がる。

例えば・・・



空気はあたためると膨張し、空気に含まれる湿度が相対的に少なくなります（相対湿度）。

加湿して乾燥を抑えることが大切です。

「うるさら7」の特徴②業界初、湿度までコントロールできる「AI 快適自動」運転

エアコンが思い通り快適にならない。それは、床・壁の輻射熱が原因かもしれません。輻射熱は太陽熱など風や温度の影響を受けずに直接伝わる熱（熱線）のこと。AI 快適自動運転は、センシングで室内の床・壁の温度（輻射熱）を検知・推測し、エアコンが記憶した過去の運転内容（好みの運転）も参考にしながら自動運転。さらに、ダイキン独自の加湿／除湿コントロールも含めて、空間全体が肌寒さや暑さを感じにくい快適運転を行います。

従来の自動運転（暖房時）



空間の温度・湿度は快適になっても、床・壁からの輻射熱が伝わり、状況によっては肌寒く感じるがありました。

AI 快適自動（暖房時）



床・壁温度を検知して、輻射熱を推測。内容を判断し、ダイキン独自の加湿コントロールと合わせ、空間全体が快適な自動運転を行います。